

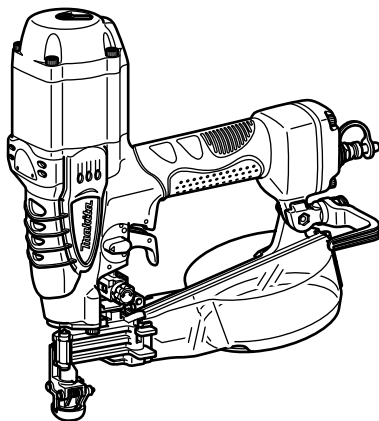
Makita

ヒューマンハードウェアのマキタ
人の暮らしとすまいのために……

取扱説明書

高圧エアビス打ち機

モデル AR410HR



このたびは**高圧エアビス打ち機**をお買い上げ賜わり厚くお礼申し上げます。
ご使用に先立ち、この取扱説明書をよくお読みいただき本機のパフォーマンスを十分ご理解の上で、適切な取り扱いと保守をしていただき、いつまでも安全に能率よくお使いくださるようお願い致します。
なお、この取扱説明書はお手元に大切に保管してください。



主要機能

モデル 主要機能	AR410HR
使用空気圧力	1.76 ～ 2.26MPa (18 ～ 23kgf/cm ²)
使用ビス長さ	連結ビス (コイルタイプ) 25 ～ 41mm
装てん本数	シート連結：100 本
使用オイル	タービン油 (JIS2 種 ISO VG32)
安全装置	コンタクトアーム方式
打ち込み調整	ダイヤル式 (調整幅 6mm)
ビス送り機構	フィードピストン方式
質量	1.9kg
本機寸法	長さ 296mm × 幅 116mm × 高さ 305mm
使用エアホース	マキタ高圧エアホース 内径 φ4.0mm 以上

- ・ 改良のため、主要機能および形状などは変更する場合がありますので、ご了承ください。

注意文の **警告** ・ **注意** ・ **注** の意味について

ご使用上の注意事項は  **警告** と  **注意** ・ **注** に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。

警告

： 誤った取り扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

注意

： 誤った取り扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

なお  **注意** に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

注

： 製品および付属品の取り扱い等に関する重要なお注意。

安全上のご注意

JPB182-1

- ・ 火災、感電、けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ・ ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- ・ お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。
- ・ 他の人に貸し出す場合は、いっしょに取扱説明書もお渡しください。

⚠ 警告

1. ご使用前に取扱説明書を必ずよくお読みください。
 - ・ 本機の取扱い知識が不十分な場合、事故の原因になります。
2. 次のときは、本機を使用しないでください。
 - ・ 事故の原因になります。
 - 疲れているとき、身体が不調なとき。
 - 酒類や薬物を飲んで正常な操作ができないとき。
3. 使用の際は、必ず保護メガネおよびヘルメットを着用してください。
 - ・ ビスを連結しているプラスチックや、打ち損じのビスが目に入ると危険です。作業中は作業員および周りの人も保護メガネ・ヘルメットを着用してください。
4. 発射（排気）音や排気エアから耳を保護するため、防音保護具を着用してください。
5. 作業環境に応じて、安全靴を着用してください。
6. 作業環境は整理整頓を行い、足元に注意してください。
7. 指定のビットを使用してください。
 - ・ 指定のビット以外のものを使用すると、故障やビス詰まりの原因になるだけでなく、思わぬ事故や施工上の欠陥になる場合があります。
8. エアホース接続の際、次のことを厳守してください。
 - ・ コンタクトアームに触れたり、対象物に当たった状態にしない。
 - ・ 射出口を人に向けない。
9. ビスを充填する前に、エアホースを接続し、次のことを確認してください。
 - ・ エアホースを接続しただけで、本機が作動しないか。
 - ・ エア漏れや異常音を発することはないか。
 - ・ 上記のような異常が発見された場合は、ただちに使用を中止し、お買い上げの販売店または当社営業所まで、点検・修理をお申し付けください。
10. 安全装置（コンタクトアーム）が正常に作動するか確認してください。正常でない場合は、絶対に使用しないでください。
 - ・ ビスを充填する前にエアホースを接続し、次の事を確認してください。
 - ・ トリガを引いただけで、作動音がする。
 - ・ コンタクトアームを対象物に押し付けただけで作動音がする。
 - ・ 上記のような異常が発見された場合は、ただちに使用を中止し、お買い上げの販売店または当社営業所まで、点検・修理をお申し付けください。

⚠ 警告

11. 指定のビスを使用してください。

- ・ 指定のビス以外のものを使用すると、故障やビス詰まりの原因になるだけでなく、思わぬ事故や施工上の欠陥になる場合があります。

12. 連結ビスの確認を行ってください。

- ・ 使用前に連結ビスが変形していないか、絡まっていないか確認してください。異常を感じる連結ビスが発見された場合、絶対に使用しないでください。

13. 使用圧力範囲でご使用ください。

- ・ 本機の圧力範囲は 1.76 ～ 2.26MPa (18.0 ～ 23.0kgf/cm²) です。この範囲内で使用してください。また、2.26MPa を越えた圧力で使用すると、破損、破裂により人体へ損傷を与える危険性があります。
- ・ 本機は減圧弁を内蔵しています。減圧弁の特性上、コンプレッサ圧力の大小と本機内圧力の大小が逆転します。

例)

コンプレッサ圧力 2.26MPa のとき本機内圧力 0.78MPa 以下

コンプレッサ圧力 1.76MPa のとき本機内圧力 0.78MPa

14. 射出口を人に向けたり、手足を射出口付近に近付けたりしないでください。

- ・ 誤って発射された場合に事故の原因になります。

15. 向かい合っただけのビス打ち作業はしないでください。

- ・ 材料をビス先が突き抜けたり、打ち損じたビスが前の作業者に当たり、思わぬ事故を引き起こす場合があります。

16. 揮発性可燃物（ガソリン・シンナーなど）の近くでは使用しないでください。

- ・ ビスを打ち込むときの火花で火災を起こす恐れがあります。

17. 次の場合はエアホースをはずしてください。

- ・ 使用しないときや作業を中断するとき
 - ・ ビスを充填するとき
 - ・ 打ち込み深さ調整や、ビス詰まりを直すとき
 - ・ 持ち運ぶ場合や手渡しするとき
- 誤ってビスが発射された場合、事故の原因になります。

18. エアホースを持って、本機を吊らないでください。

- ・ 人体に接触し、思わぬ事故が発生するばかりか、本機の落下による損傷の原因となります。

19. 足場の安全性を十分に確認してください。

- ・ 足場を利用して作業する場合、転落することのないように十分に安全を確保するようにしてください。

20. 高所作業の場合、エアホースを固定してください。

- ・ 本機が落下すると、歩行者や他の作業者に危険がおよびます。落下を防ぐため、エアホースを固定してください。

21. 傾斜面（屋根など）での作業は、下から上に向かって作業してください。

- ・ 下に向かって作業すると、足を踏みはずす場合があります。

22. 使用中に異常を感じたら、すぐに使用を中止してください。

- ・ 異常を感じた場合は、ただちに使用を中止し、お買い上げの販売店または当社営業所まで、点検・修理をお申し付けください。

23. 作業後は必ずエアホースをはずしてください。

⚠ 警告

24. 作業後は、必ずビスを抜き取ってください。

- ・ ビスをマガジン内に残しておく、次に使用する際、誤って作動した場合に、思わぬ事故を引き起こすことがあります。

25. 本機を絶対に改造しないでください。

- ・ 本機は使用者の安全を考えて設計製造されています。お客様の都合で改造したり、正規部品以外を取り付けて使用しないでください。

⚠ 注意

1. 裾や袖の締まりのよい服装をしてください。

- ・ 袖口や裾の開いた衣服などで作業しますと、事故の原因になります。

2. 作業場は、いつも明るくきれいにしてください。

- ・ 暗かったり、ちらかったところでの作業は事故の原因になります。

3. 使用前に、部品が損傷していないか、ボルトがゆるんでいないかを点検してください。

- ・ 不完全な機械を使用すると、事故の原因になります。

4. 作業する箇所に電線管やガス管などの埋設物がないことを確かめてください。

- ・ 埋設物を損傷すると感電やガス漏れ事故の原因になります。

5. 射出口を確実に材料に当ててください。

- ・ 確実に当てていないと、ビスがはね返り、事故の原因になります。

6. 作業中は、本機に顔などを近づけないでください。

- ・ ビスの上や木の節などに当たった場合、本機が大きく反動し、けがをする原因になります。

7. 作業中に本機の調子が悪くなったり、異常に気付いた場合には、ただちに使用を中止してください。

- ・ そのまま使用していると事故の原因になります。

8. 本機及びコンプレッサは、空気充填のまま長時間直射日光に当てて放置しないでください。

- ・ タンク内の高圧の空気がさらに高圧になり、事故の原因になります。

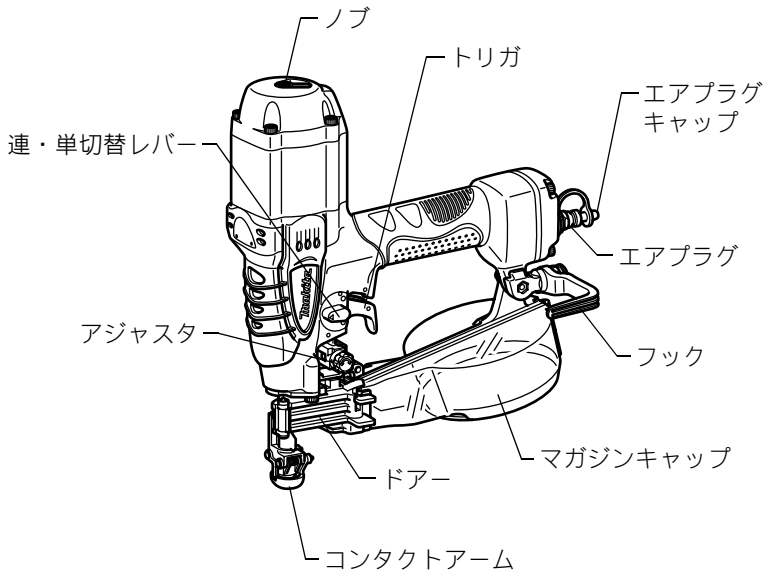
9. 本機の握り部は常に乾かしてきれいな状態を保ってください。

- ・ 握り部が滑りやすいとけがの原因になります。

10. いつも安全に能率よくご使用いただくために、定期点検をおすすめします。点検修理は、お買い上げの販売店またはお近くの当社営業所にお申し付けください。

- ・ 修理の知識や技術のない人が修理しますと、事故の原因となります。

各部の名称および標準付属品



標準付属品

- ・ セーフティゴーグル（保護メガネ）
- ・ 油サシ（タービン油 JIS 2 種 ISOVG32）
- ・ 六角棒レンチ 4
- ・ 交換用ビット

別販売品のご紹介

- ・ 別販売品の詳細につきましてはカタログを参照していただくか、お買い上げ販売店もしくは、当社営業所へお問い合わせください。

⚠ 警告

本機の故障や事故をさけるため、必ず当社純正連結ビスをご使用ください。使用ビスは、必ず下記の部材適合表に合ったビスをご使用ください。不適切なビスを使用すると本機の十分な性能が得られません。

連結ビス

材質	用途	長さ (mm)	ネジ径 (mm)	頭径 (mm)	部品番号	梱包単位
鉄	木質 下地	25	φ 3.8	φ 8.2	F-70573	100 本 × 40 巻
		28			F-70586	
		32			F-70599	
		41			F-70605	
	鋼板 下地	25	φ 3.5		F-70094	
		28			F-70100	
		41			F-70113	

ビスと部材適合表

下地材	長さ L(mm)	石膏ボードの厚さ (mm)					
		t9.5	t12.5	t15	t9.5+t9.5 (二重張り)	t9.5+t12.5 (二重張り)	t12.5+t12.5 (二重張り)
木下地	25	○	×	×	×	×	×
	28	○	○	×	×	×	×
	32	×	○	○	○	×	×
	41	×	×	×	○	○	○
鋼板下地 (厚さ 0.8mm 以下)	25	○	○	×	×	×	×
	28	○	○	○	×	×	×
	41	×	×	×	○	○	○

- ※ 部材の堅さや石膏ボードの種類によっては、十分な打ち込みができない場合があります。

使い方

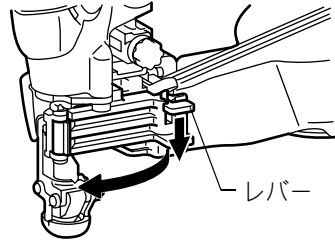
ビスの入れ方

⚠ 警告

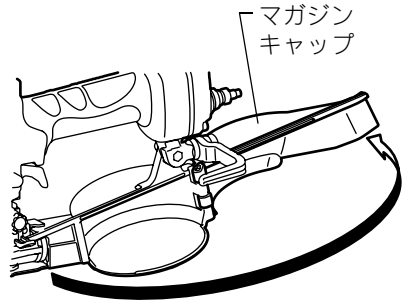
ビスを装てんする際は、必ず本機からエアホースをはずしてください。

- ・ 誤って本機が作動すると事故の原因になります。

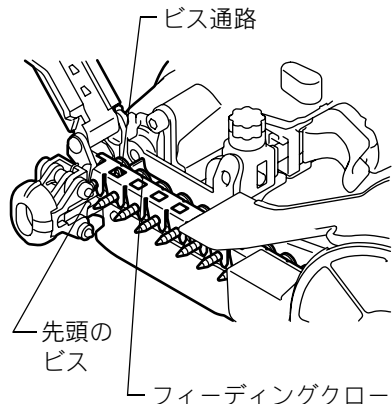
1. エアホースをはずします。
2. レバーを押しながら、ドアを開きます。



3. マガジンキャップを開きます。



4. マガジンにビスを入れます。
5. 先頭のビスをドライバガイドまで引き出し、マガジンキャップを閉じます。
6. 先頭のビスをビス通路に完全に入れます。その際、フィーディングクロー（ビス送り爪）にビスが完全にセットされていることを確認してください。この時、ビットがドライバガイドまで降りていてビスをセットできない場合は本機を逆さま（ドライバガイドを上側）にしてビットを所定の位置に戻してください。
7. レバーがしっかり止まるまで、ゆっくりとドアを閉じます。



使い方

ビスの打ち込み方法

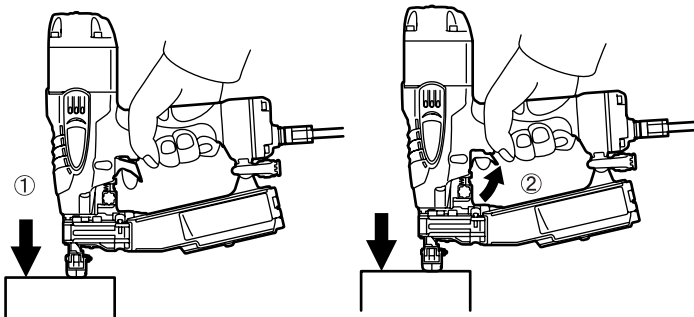
⚠ 警告

使用空気圧 1.76 ～ 2.26MPa を必ず守ること。
一度打ったビスの上に、再度ビスを打ち込まないでください。

⚠ 注意

本機は釘打ち機とは異なり、十分な押し付け力が必要です。
押し付け力が不足しますと、ビス浮きやカムアウトが生じます。
射出口の先端を必ず対象物に直角に押し当てて打ち込んでください。
確実に押し付けて打つために、単発打ちでの使用をおすすめします。

- ・ まず打ち込み対象物にコンタクトアームの先端を軽く押し当てます。
- ・ 続いて、トリガを引いてください。
その際、モータの回転が止まるまではトリガをはなさないこと。
トリガを早くはなしますと、ビス浮き、ビス送り不良の原因となりますので、ご注意ください。

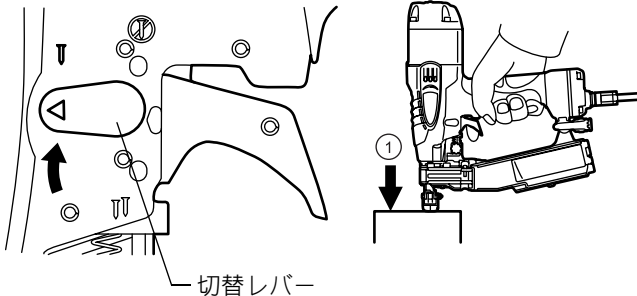


使い方

単発・連続打ちの切替機構

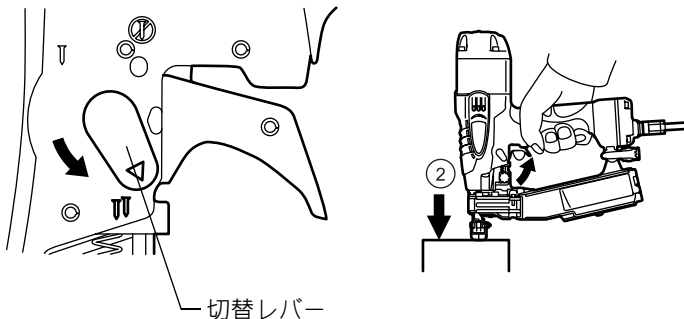
「単発打ち」方法

- ・ 単発打ちとは、打ち込み対象物にコンタクトアームを押し当て、トリガを引く操作でビスを1本ずつ打つことができます。
- ・ 切替レバーを「」の位置にすると「単発モード」になります。
 - ①打ち込み対象物にコンタクトアームを押し当てます。
 - ②トリガを引きます。



「連続打ち」方法

- ・ 連続打ちとは、トリガを引いたまま打ち込み対象物にコンタクトアームを押し当てる操作を繰り返すことで、連続的にビスを打つことができます。
- ・ 切替レバーを「」の位置にすると「連発モード」になります。
 - ①トリガを引きます。
 - ②トリガを引いたまま打ち込み対象物にコンタクトアームを押し当てれば、連続打ちができます。



使い方

トリガをロックする方法

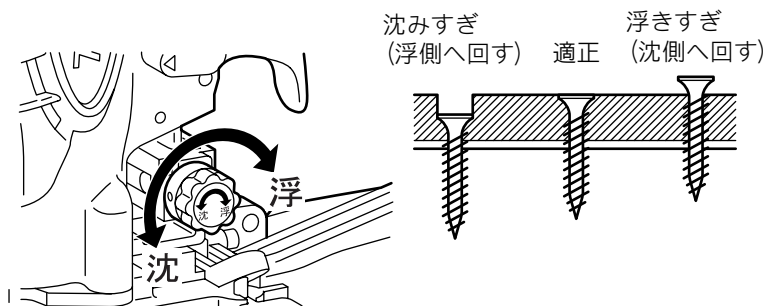
- ・ 本機にはビス打ち作業をしていないとき、誤った操作による事故を防ぐために、トリガロックを装備しています。トリガロックとは、トリガをロックし、発射しない状態にする機構です。
- ・ 切替レバーを「」の位置にすると、トリガが固定されます。
- ・ ビスを打つときは、ロックレバーを「」または「」の位置にしてください。作業以外はトリガをロックして、エアホースをはずしてください。

アジャスタ（打込み深さ調整）の操作方法

⚠ 警告

打込み深さ調整の際は、必ずトリガロックをして、エアホースをはずしてください。

- ・ 本機はビスの打込み深さを調整する、アジャスタ機構を装備しています。
- ・ アジャスタを回転させて、打込み深さを調整してください。打込み調整幅は 6mm です。（1 回転で約 0.8mm の調整ができます。）



使い方

フックの使い方

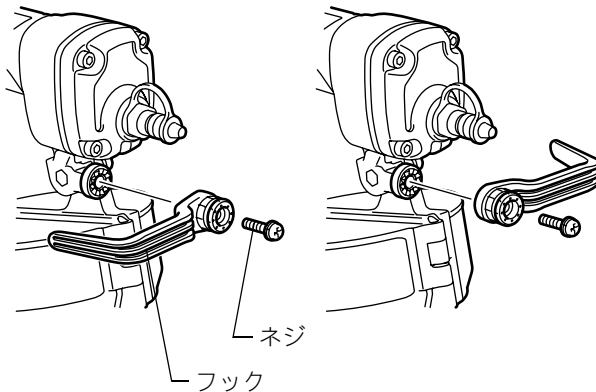
⚠ 警告

フックの位置を変える場合や、使用の際は必ずトリガロックをして、エアホースをはずしてください。

フックを腰のベルトなどにかけないでください。

- ・ フックがはずれて本機が落下した場合、誤作動する恐れがあり、事故の原因になります。

- ・ フックは本機を一時引っかけておくのに便利です。
- ・ 本機は、フックの取付位置を変更できます。
- ・ フックを取り付けているネジをはずし、フックの位置を変更して、ネジを締め直してください。



使い方

切替機構のモード選択

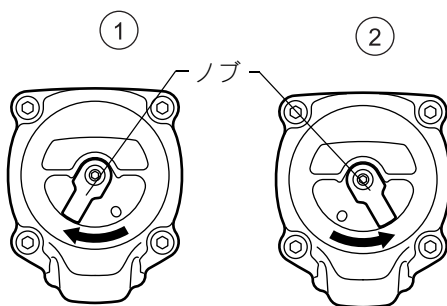
本機には、打ち込み部材によって最適なビス打ち作業がおこなえるための切替機構が装備されております。

下記、「切替モード表」にあった位置にあわせて、ご使用ください。

なお、ノブは「①」または「②」の正しい位置（カチッととまる位置）まで確実に回してください。

①、②の中間位置でご使用されますと、本機の部品破損の原因となり、また本来の性能が発揮されないことがあります。

切替モード



鋼板下地	鋼板厚 0.8mm	②	②		②
	鋼板厚 0.6mm	①	①		①・②
	鋼板厚 0.4mm	①	①		①
木下地		①	①	①	①
ビス長さ		25mm	28mm	32mm	41mm

※ 一般用石膏ボード1枚あたりの厚さが9.5mm、12.5mm、15mmに適応します。

※ 施工可能な鋼板下地の厚さは 0.8mm 以下です。（鋼板下地の重なり部分にはねじ込めません。）

※ 必ず当社純正連結ビスをご使用ください。

※ 通常は切替モード①でご使用ください。力不足でビスが入らない場合に切替モードを②にして、ご使用することをおすすめします。

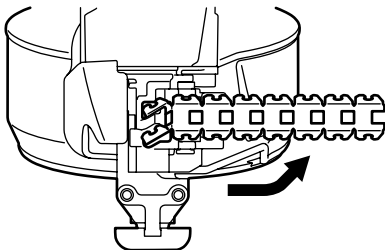
使い方

連結シートの切り方

⚠ 警告

連結シートを切る際は、必ずトリガロックをして、エアホースをはずしてください。

- ・ 連結ビスを使用していると、ドライバガイドより連結シートが出てきます。出てきた連結シートは矢印の方向に引きちぎってください。

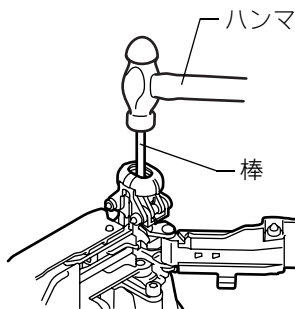


ビス詰まりの直し方

⚠ 警告

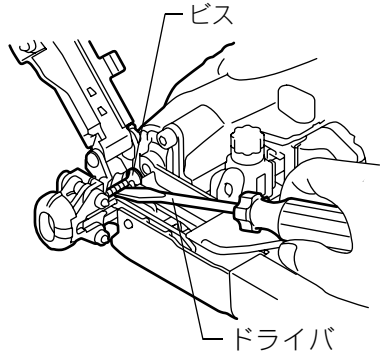
ビス詰まりを直す際は、必ずトリガロックをして、エアホースをはずします。

- ・ トリガロックをして、エアホースをはずします。
- ・ ドアを開け、装填されている連結ビスを抜き取ります。
- ・ 射出口に細い鉄棒を差し込み、ハンマで叩いてください。一度に叩くと、鉄棒が挟まり、取れなくなる場合があります。なおこのときビットは叩かないでください。ビットの先端が破損し、ビス打ち不良の原因となります。



使い方

- ・ ドライバガイドの内部に詰まったビスをマイナスドライバー等で取り除きます。
- ・ ビスを除去した後、ビットがビス通路に出ていない事を確認してください。(出ていた場合、棒で押し込んでください。)
- ・ 除去作業が完了したら、再度、ビスを装着してください。



ビットの交換方法

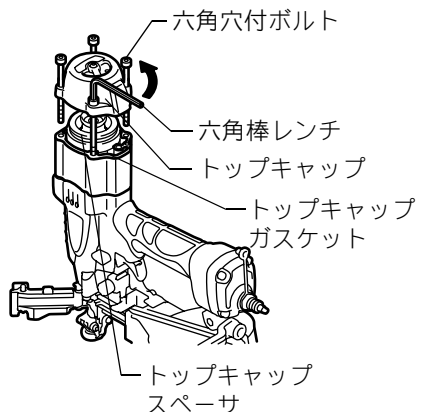
⚠ 警告

ビットを交換する際は、必ずトリガロックをして、エアホースをはずして、装着されているビスをすべて抜き取ってください。

- ※ 細かい部品があるので紛失しないように注意してください。
- ※ 内部構成部品に砂やほこりが付着しないよう、きれいな場所で行ってください。

ビットの取りはずし

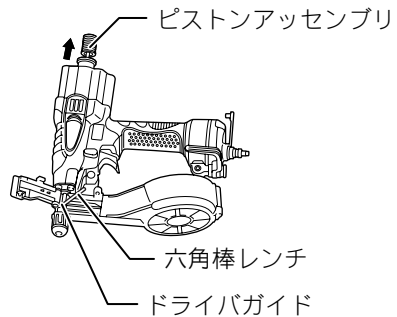
- ① ホースをはずし、装着されているビスをすべて抜き取ります。
- ② 付属の六角棒レンチで六角穴付ボルトを4本緩めて、トップキャップを取りはずします。



- ※ トップキャップスペーサもはずれますが、はずさずに本機にとどめてください。
- ※ トップキャップガスケットが一緒にはずれた場合は、変形させないように注意し、組み忘れないよう注意してください。

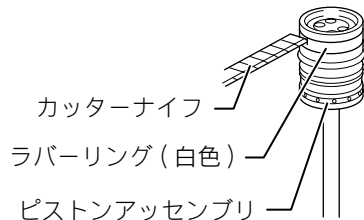
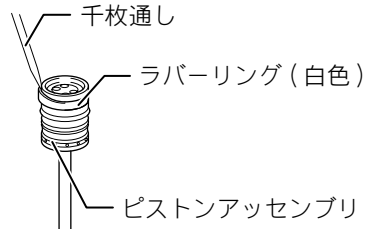
使い方

- ③ ドライバガイドのビット通路に六角棒レンチを差し込んで、ピストンアッセンブリを押し出します。

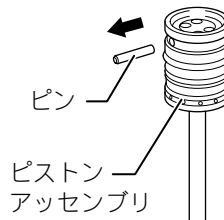


- ④ 取りはずしたピストンアッセンブリから千枚通し等でラバーリング（白色）を取りはずします。

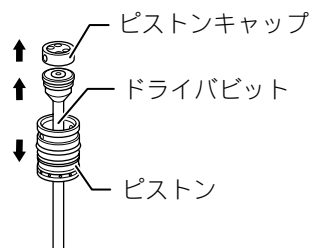
※ ラバーリング（白色）は新品のドライバビットに付属していますので、取りはずせない場合はカッターナイフ等で、ラバーリングを切断しても構いません。



- ⑤ 次にピストンアッセンブリからピンを抜き取ります。



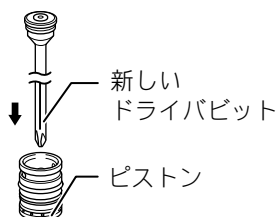
- ⑥ ピストンを下げるようにして、ピストンキャップとドライバビットを取りはずします。



使い方

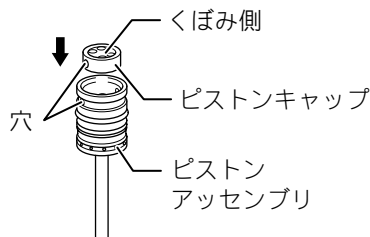
ビットの取り付け

- ① 新しいドライバビットをピストンに取り付けます。

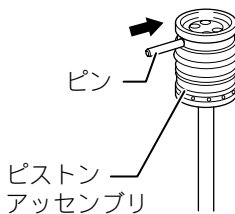


- ② 次にピストンアセンブリにピストンキャップを取り付けます。
このとき、ピストンアセンブリとピストンキャップの穴位置を合わせてください。

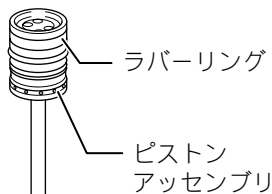
※ ピストンキャップのくぼみがある面を
図のように取り付けてください。



- ③ ピンをピストンアセンブリに通します。

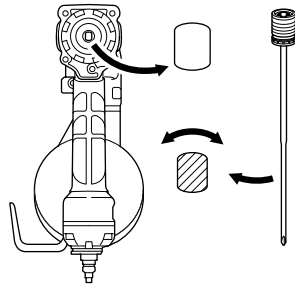


- ④ ピストンアセンブリにラバーリングを取り付けます。

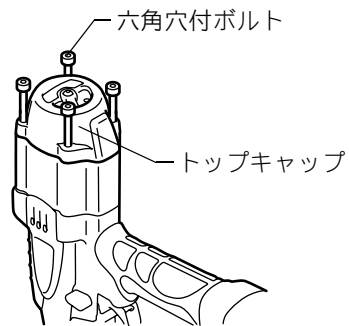


使い方

- ⑤ 本機のビット通路の形状とビットの形状が合うように、ビットの方向をあわせて本機に差し込んでください。

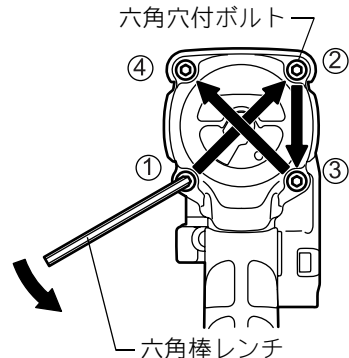


- ⑥ 本機にトップキャップを取り付け六角穴付ボルトを4本通します。



- ⑦ 六角穴付ボルトを六角棒レンチで、しっかりと締めます。
このとき、矢印の順に (①～④) 締めてください。

※ 規定の締め付けトルクは $7.5 \sim 8.5\text{N}\cdot\text{m}$ です。

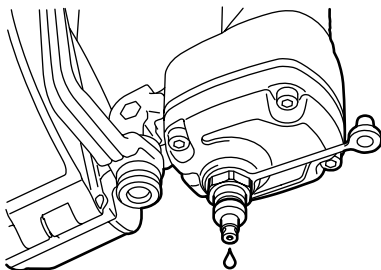


ビットの交換作業が終了しましたら、本機に異常がないか十分確認してから、ビス打ちを開始してください。

保守・点検について

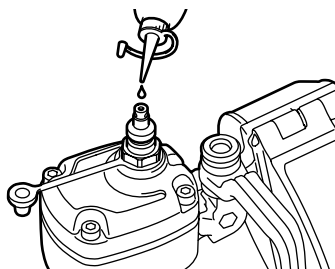
①水抜きを行う

本機のエアプラグをしばらく下に向け、本機内部に残っている水分をできるだけ除去してください。



②オイルを注油する

本機に付属している油サシ（タービン油 JIS 2 種 ISOVG32）を 2～3 滴（約 1 cc）エアプラグより注油してください。指定外のオイルを使用すると、故障の原因となります。

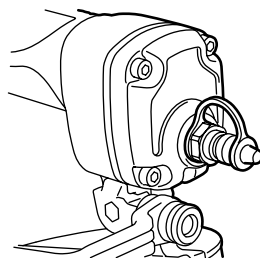


③本機の清掃

本機が、埃・木屑・砂などで汚れている場合は、エアダスタで清掃してください。

④エアプラグキャップの使用

本機を使用しない時は、機械内部に異物（ゴミ・埃）が入らないように、エアプラグキャップを装着してください。



⑤作業後の保管

プラスチックケースに収納し、直射日光の当たらない場所に保管してください。

本機のお手入れ

- ・ 乾いた布か石けん水をつけた布できれいに拭いてください。

注

- ・ ガソリン、ベンジン、シンナー、アルコール等は変色、変形、ひび割れの原因となりますので使用しないでください。

ご修理の際は

- ・ 修理はご自分でなさらないで、必ずお買い上げの販売店または当社営業所にお申し付けください。

全国に広がるアフターサービス網

お買い上げ商品のご相談は、最寄りのマキタ登録販売店もしくは、下記の当社営業所へお気軽にお尋ねください。

事業所名 電話番号

札幌支店 (011) (783) 8141
札幌営業所 (011) (783) 8141
旭川営業所 (0166) (29) 0960
釧路営業所 (0154) (37) 4849
函館営業所 (0138) (49) 9273
苫小牧営業所 (0144) (68) 2100
帯広営業所 (0155) (36) 3833
北見営業所 (0157) (26) 9011

仙台支店 (022) (284) 3201
仙台営業所 (022) (284) 3201
古川営業所 (0229) (24) 0698
青森営業所 (017) (764) 4466
八戸営業所 (0178) (43) 3321
盛岡営業所 (019) (635) 6221
水沢営業所 (0197) (22) 5101
郡山営業所 (024) (932) 0218
いわき営業所 (0246) (23) 6061
福島営業所 (0243) (22) 1204

新潟支店 (025) (247) 5356
新潟営業所 (025) (247) 5356
長岡営業所 (0258) (30) 5530
山形営業所 (023) (643) 5225
酒田営業所 (0234) (26) 3551
秋田営業所 (018) (863) 5205

宇都宮支店 (028) (634) 5295
宇都宮営業所 (028) (634) 5295
小山営業所 (0285) (25) 5559
水戸営業所 (029) (248) 2033
土浦営業所 (029) (821) 6086

埼玉支店 (048) (777) 4801
さいたま営業所 (048) (777) 4801
川越営業所 (049) (222) 2512
熊谷営業所 (048) (521) 4647
越谷営業所 (048) (976) 6155
前橋営業所 (027) (232) 5575
高崎営業所 (027) (365) 3688
向毛営業所 (0276) (46) 7661

千葉支店 (043) (231) 5521
千葉営業所 (043) (231) 5521
市川営業所 (047) (328) 1554
成田営業所 (0476) (73) 8101
木更津営業所 (0438) (23) 2908
柏営業所 (04) (7175) 0411

事業所名 電話番号

東京支店 (03) (3816) 1141
東京営業所 (03) (3816) 1141
中野営業所 (03) (3337) 8431
足立営業所 (03) (3899) 5855
大田営業所 (03) (3763) 7553
江戸川営業所 (03) (3653) 5171
多摩営業所 (042) (384) 8411
立川営業所 (042) (542) 1201

横浜支店 (045) (472) 4711
横浜営業所 (045) (472) 4711
川崎営業所 (044) (811) 6167
平塚営業所 (0463) (54) 3914
相模原営業所 (042) (757) 2501
湘南営業所 (0466) (87) 4001

静岡支店 (054) (281) 1555
静岡営業所 (054) (281) 1555
沼津営業所 (055) (923) 7811
浜松営業所 (053) (464) 3016
甲府営業所 (055) (276) 7212

金沢支店 (076) (249) 5701
金沢営業所 (076) (249) 5701
七尾営業所 (0767) (52) 3533
富山営業所 (076) (451) 6260
高岡営業所 (0766) (21) 3177
福井営業所 (0776) (35) 1911

岐阜支店 (058) (274) 1315
岐阜営業所 (058) (274) 1315
多治見営業所 (0572) (22) 4921
松本営業所 (0263) (85) 4751
長野営業所 (026) (225) 1022
上田営業所 (0268) (22) 6362
飯田営業所 (0265) (24) 1636

名古屋支店 (052) (419) 0561
名古屋営業所 (052) (419) 0561
豊橋営業所 (0532) (46) 9117
岡崎営業所 (0564) (22) 2443
知多営業所 (0569) (88) 8470
一宮営業所 (0586) (75) 5382
東名古屋営業所 (0561) (73) 0072
津営業所 (059) (232) 2446
四日市営業所 (059) (351) 0727
伊勢営業所 (0596) (36) 3210

京都支店 (075) (621) 1135
京都営業所 (075) (621) 1135
福知山営業所 (0773) (23) 7733
大津営業所 (077) (545) 5594
彦根営業所 (0749) (22) 6184

事業所名 電話番号

大阪支店 (06) (6746) 7220
大阪営業所 (06) (6746) 7220
東大阪営業所 (06) (6746) 7531
南大阪営業所 (0725) (46) 6611
奈良営業所 (0742) (61) 6484
橿原営業所 (0744) (22) 2061
和歌山営業所 (073) (471) 4585
田辺営業所 (0739) (25) 1027
沖縄営業所 (098) (874) 1222

兵庫支店 (0794) (82) 7411
三木営業所 (0794) (82) 7411
尼崎営業所 (06) (6437) 3660
神戸営業所 (078) (672) 6121
姫路営業所 (079) (281) 0204

広島支店 (082) (293) 2231
広島営業所 (082) (293) 2231
福山営業所 (084) (923) 0960
三原営業所 (0848) (64) 4850
岡山営業所 (086) (243) 4723
宇部営業所 (0836) (31) 4345
徳山営業所 (0834) (21) 5583
鳥取営業所 (0857) (28) 5761
松江営業所 (0852) (21) 0538

高松支店 (087) (867) 6411
高松営業所 (087) (867) 6411
徳島営業所 (088) (626) 0555
松山営業所 (089) (951) 7666
宇和島営業所 (0895) (22) 3785
高知営業所 (088) (884) 7811

福岡支店 (092) (411) 9201
福岡営業所 (092) (411) 9201
北九州営業所 (093) (551) 3481
飯塚営業所 (0948) (26) 3361
久留米営業所 (0942) (43) 2441
佐賀営業所 (0952) (30) 6603
長崎営業所 (095) (882) 6112
佐世保営業所 (0956) (33) 4991

熊本支店 (096) (389) 4300
熊本営業所 (096) (389) 4300
八代営業所 (0965) (43) 1000
大分営業所 (097) (567) 3320
宮崎営業所 (0985) (26) 1236
鹿児島営業所 (099) (267) 5234
沖縄営業所 (096) (874) 1222

関東物流センター (048) (771) 3451
関西物流センター (0725) (46) 6715

株式会社 マキタ

愛知県安城市住吉町 3-11-8 〒446-8502

TEL.0566-98-1711 (代表)

882285D8